事業報告

①助成事業名:高次脳機能障害者支援セミナー ~就労支援の現状と展望~

②団体名:社会福祉法人 明光会

平成24年度障害者就業支援シンポジウム実行委員会

静岡市葵区慈悲尾 180 障害者就業・生活支援センターさつき 内

- ③原稿執筆者:障害者就業・生活支援センターさつき 所長 中村文久
- ④メールアドレス meikoukai@f4.dion.ne.jp
- ⑤団体の紹介

社会福祉法人明光会は昭和35年創立の障害者福祉の老舗です。

指定福祉型障害児施設の安倍学園、指定障害者支援施設 安倍寮をはじめとして障害者自立支援法に基づく入所、通所の各種サービス事業所、指定特定相談支援事業所 静岡市委託相談支援事業所、国委託の障害者就業・生活支援センター等を運営する 静岡障害保健福祉圏域におけるリーダー的存在であります。

平成 23 年度から静岡県から「高次脳機能支援普及事業」を受託し高次脳機能障害者への支援を始めました。さらに今年度(平成 24 年度)からは志太榛原障害保健福祉圏域へも担当エリアを拡大して実施しております。

⑥助成事業概要

この事業は「高次脳機能支援普及事業」を受託してから増えている高次脳機能障害者 への支援、特に困難視されている就労支援について現状を知りそこから見えてくる課 題に対してどのように解決策を講じていけばよいか、高次脳機能障害者の就労をさら に進めるためにはどうしたらよいかについて当事者、家族、支援者が集まって意見交 換し支援策を考え関係者間の連携を深める目的をもっておこなわれるものです。 高次脳機能障害者への就労支援の現状については浜松市で高次脳機能障害者への就労 移行支援を専門に行っている「ワークセンター大きな木」所長の建木良子さんに講演 をお願いしました。作業療法士の経験を生かした支援方針や独自の支援プログラム 支援事例の紹介を通じて高次脳機能障害者への就労支援の現状を参加者に理解して いただきます。続いて行いますシンポジウムは「高次脳機能障害者の就労を考える~ 支援の課題と展望~」と題し、高次脳機能障害を持ちながら支援を受けて就労してい る当事者、脳外傷友の会の代表としても活動している当事者家族、支援者の立場から 静岡障害者職業センターの障害者職業カウンセラー、病院でリハビリテーションを担 っている作業療法士をシンポジストに迎え、さらに講演者にも加わっていただいて 意見交換をしながら現状での支援の課題を明らかにし今後の支援のありかたを展望し ます。当事者、家族からは現在の生活の様子や就職先での配慮、理解がどのように されているか、支援者に望むこと、当事者、家族としてできること等をお話しいただ きます。支援者からは支援の課題、解決策、支援機関同士の連携について、また当事

者、家族へ望むこと等をお話しいただきます。また適宜会場からのご意見も伺いなが ら進めていきます。

- ·開催時期 平成 25 年 2 月 23 日
- ·開催時間 午後1時~午後4時30分
- •開催場所 静岡県総合社会福祉会館 703 会議室
- ・参加者 高次脳機能障害を持つ当事者、その家族、障害者就労支援事業所職員、リハビリテーション関係者、障害者相談支援事業所相談員、行政機関、企業採用担当者等
- •内容 主催者挨拶

来賓挨拶

~休憩(~

講演「高次脳機能障害者への就労支援はどう行なわれているのか」 講師「ワークセンター大きな木」所長 建木 良子 氏

シンポジウム「高次脳機能障害者の就労を考える~支援の課題と展望~」 シンポジスト: 当事者、家族、

小林 晃子 氏(城西神経内科クリニック) 阿形 たか子 氏(静岡障害者職業センター) 建木 良子 氏(ワークセンター大きな木)

コーディネーター:障害者就業・生活支援センターさつき 中村文久

⑦事業の成果

開催日当日は、当事者団体の脳外傷友の会勉強会が別に開催されていたこともあり当事者、家族の参加が少なかったものの約80名が集まった。

講演では静岡県内に数多くある就労移行支援事業所のなかでおそらく唯一と思われる 高次脳機能障害者専門の事業所としての理念、設立の経緯、支援の方針等が分かりやす く説明された。また作業療法士ならではの支援プログラムや実際の支援事例の紹介を通 じ高次脳機能障害者への支援がどのように行われているかよく理解することができたと 思う。静岡市内にある就労移行支援事業所職員も参加されていたので今後の支援の参考 となったのではないか。福祉系の事業所にとって連携の必要性を感じつつも敷居が高く 繋がりが薄い病院との繋がりについても参考になる話しがあった。

シンポジウムでは、高次脳機能障害を抱えながらも一般企業で就労している富士市在住の当事者とその母親、働き盛りに突然この障害を持った夫を妻として、またある時はジョブコーチとなって支えるだけでなく脳外傷友の会の代表としてこの障害の理解や支援の普及に尽力している当事者家族の参加を得たことで話がより深いものになったと思う。障害の受容の困難さ、ようやく支援機関にたどり着いたときの安心感、啓蒙活動は行われているもののまだまだ理解の進んでいない社会環境等が浮き彫りとなった。支援者の立場で出席された3名は、職業訓練・評価、就労・地域生活支援、医療(リハビリテーション)と同じ支援者ではあるが担当領域が違い支援機関の連携の重要性を

感じさせるものとなった。

⑧成果の広報、公表

当日の模様は、翌日の静岡新聞朝刊の県内総合版で広く報道された。関係機関の方からも「記事を見た」と関心を示して下さっている。また県関係者からも「新聞で読んだ」と声を掛けていただいた。記事は県内総合版に掲載されたので各センターへの反響もあったようである。各センターへはそれぞれの広報誌や活動報告のなかで今回の研修会について広報してもらうようにお願いしたところである。

また近日中に研修会の内容と静岡県障害者就業・生活支援センター連絡協議会の概要を まとめた小冊子「静岡県障害者就業・生活支援センター第1回相談支援担当者研修会報 告書」を作成し、各センターを通じ県内の行政機関、特別支援学校等、障害福祉サービ ス事業所、就労支援機関、相談センター、企業等に配布する予定である。

各センターで行っている企業向けの就労支援セミナーや商工会議所等の講座でも活用 してもらうように考えている。

9今後の展開

静岡県障害者就業・生活支援センター連絡協議会では今後毎年定期的に相談員研修会を開催していく予定である。各センターでは今後ますます支援が困難な事例が増えてくるものと思われる。困難なケースほど支援関係者が多くなり関係者間の調整が難しくなる。今後は、この調整を行なうケース会議を模したグループワークを研修会に取り入れ地域における障害者就業・生活支援センターの役割である調整機能の向上を図っていきたいと考えている。各地域で自立支援法による計画相談が進んでいくと障害福祉サービスを利用するうえで必須となるサービス担当者会議に(特に就労系のサービスにおいては)障害者就業・生活支援センターの参加は欠かせないだろう。また計画相談においては相談支援専門員の果たす役割が大きくなる。今後の相談員研修会では障害者就業・生活支援センターの相談担当者と相談支援専門員との意見交換やケース検討、サービス利用計画の作成等を行なっていくことも考えられる。現在このような研修はなく静岡県障害者就業・生活支援センター連絡協議会で取り組んでいこうと思う。